



(ろすのん)

食べものに、
もったいないを、
もういちど。

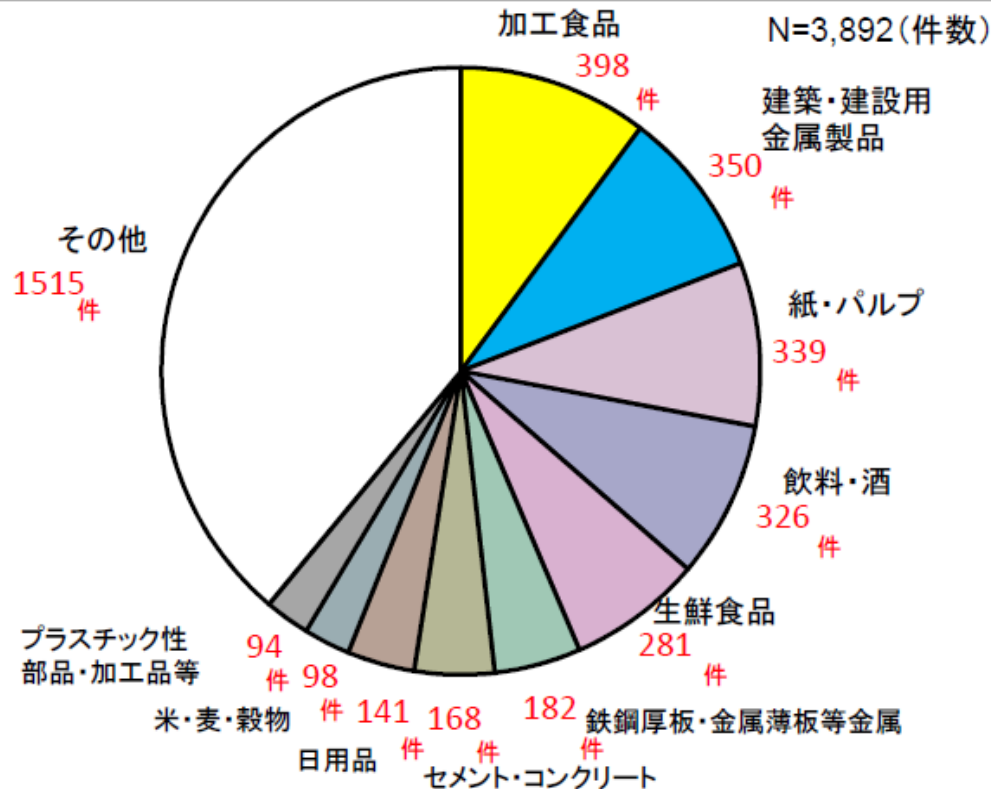
NO-FOODLOSS PROJECT

賞味期限の年月表示化

○働き方改革

- ✓ 食品等の物流においては、トラックドライバー不足等から物流費の高騰や輸送手段の確保が困難となる状況。今後とも安定的に物流を確保するためには、トラック輸送への負荷の軽減、物流の効率化を図ることが喫緊の課題。
- ✓ 食品・飲料は、物流倉庫等でのトラックの荷待ち時間の発生件数が多く、ドライバーの長時間労働の是正に向けて、取引慣行上の課題も含めてサプライチェーン全体で解決を図っていくことが必要。

30分以上の荷待ち時間が生じた件数(輸送品目別)



平成29年7月、新しい貨物自動車運送事業輸送安全規則が施行。トラックドライバーが、車両総重量8トン以上または最大積載量5トン以上のトラックに乗務した場合、荷主の都合により、30分以上待機したときは、荷待ち時間等の記録と保存が義務づけ。

出典：国土交通省「荷待ち時間のサンプル調査」

(全日本トラック協会を通じて、平成29年7月第1週～第2週の運行について調査)

○働き方改革における「賞味期限の年月表示化」の位置づけ

- ✓ 賞味期限の年月表示化については、自動車運送事業の働き方改革に資する施策として、関係省庁連絡会議（議長：内閣官房副長官）にて取りまとめた政府行動計画においても、納品期限緩和、賞味期限延長と一体的に推進することを明記。

【年月表示化の期待効果】

在庫の日付管理により、貨物が小ロット化し入出庫作業の効率化を妨げ、トラック待機時間の一因となっている。



日付順にピックアップするため、動線も複雑化し、出庫作業に時間がかかる...



出庫作業に時間がかかるため、しばらく待機中...



賞味期限の年月表示化に伴い、在庫も年月管理にすることで、効率的な入出庫作業等を実現。

自動車運送事業の働き方改革の実現に向けた 政府行動計画（平成30年5月）（抜粋）

I. 長時間労働の是正のための環境整備 (3) 取引環境の適正化

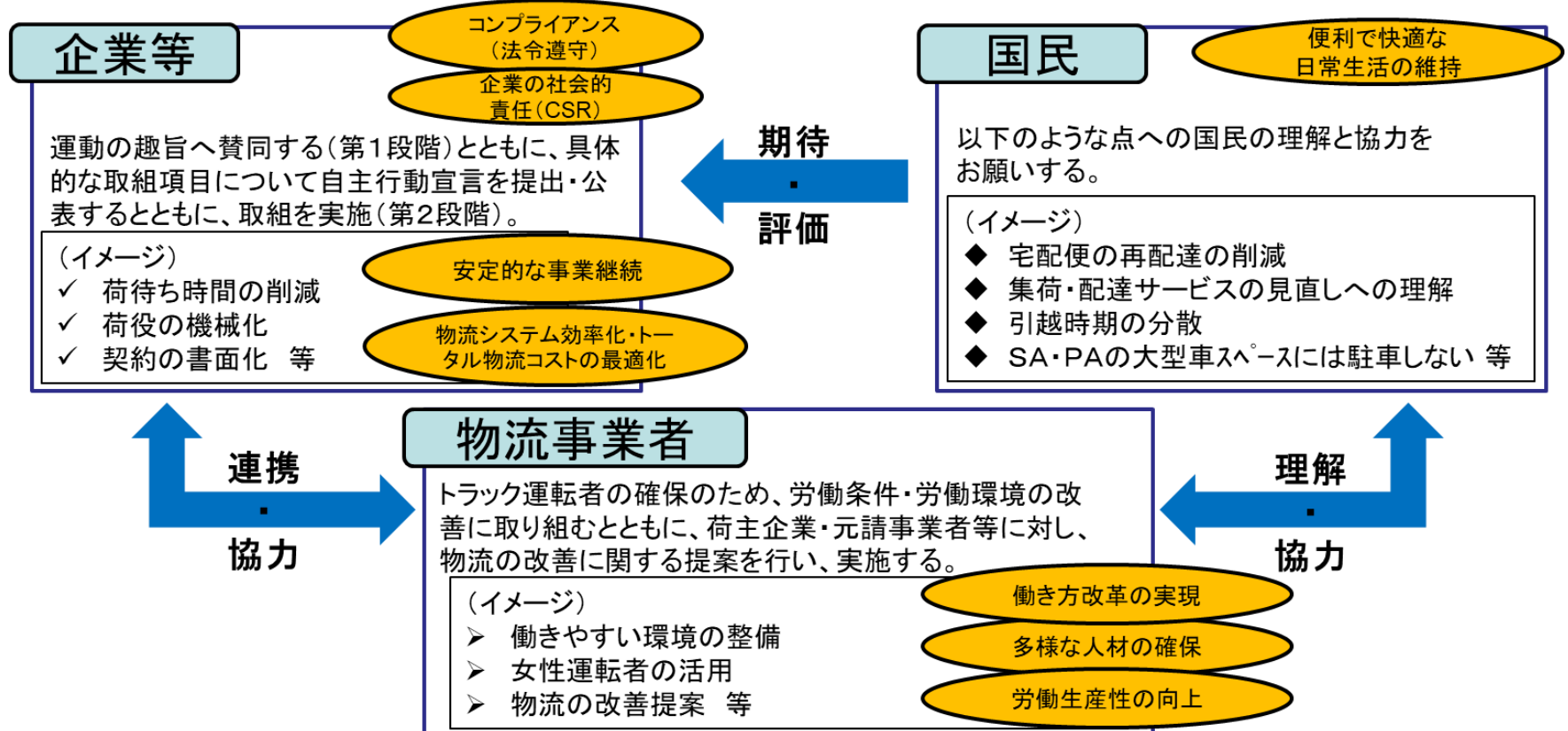
【課題】
個社での解決が難しいフードチェーン全体での非効率な食品ロスや非効率な荷積みや輸送の一因となっており、改善が必要。



【施策】
製造業者、卸売業者、小売業者の参画により、製・配・販連携協議会や商慣習検討ワーキングチームを設置し、賞味期限の延長と賞味期限の年月表示化、納品期限の緩和を一体的に推進する。

(参考) ホワイト物流推進運動

- ✓ 「ホワイト物流」推進運動は、「自動車運送事業の働き方改革に関する政府行動計画」の重点施策。
- ✓ 深刻化が続くトラック運転者不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、
 - ① トラック運送の生産性の向上・物流の効率化
 - ② 女性や60代以上の運転者等も働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現に取り組む運動。※地方説明会（団体、企業向け）が5月以降開催予定。



○ 賞味期限の年月表示化について ～国の基準～

【加工食品品質表示基準（消費者庁）】

(6) 消費期限又は賞味期限

消費期限又は賞味期限を、次に定めるところにより記載すること。

ア 製造から消費期限又は賞味期限までの期間が3月以内のものにあつては、次の例のいずれかにより記載すること。ただし、(イ)、(ウ)又は(I)の場合であつて、「.」を印字することが困難であるときは、「.」を省略することができる。この場合において、月又は日が1桁の場合は、2桁目は「0」と記載すること。

(ア) 平成12年4月1日

(イ) 12.4.1

(ウ) 2000.4.1

(I) 00.4.1

イ 製造から賞味期限までの期間が3月を超えるものにあつては、次に定めるところにより記載すること。

(ア) 次の例のいずれかにより記載すること。ただし、b、c又はdの場合であつて、「.」を印字することが困難であるときは、「.」を省略することができる。この場合において、月が1桁の場合は、2桁目は「0」と記載すること。

a 平成12年4月

b 12.4

c 2000.4

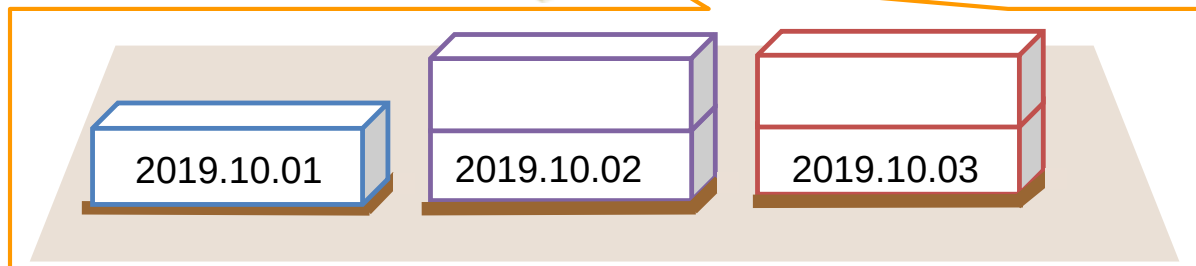
d 00.4

(イ) (ア)の規定にかかわらず、アに定めるところにより記載することができる。

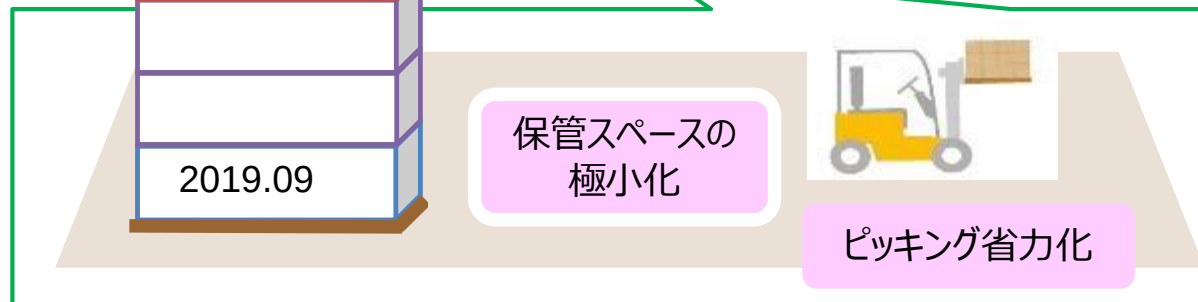
<参考> 賞味期限の年月表示化の期待効果 ①

日付管理から月管理になることで、保管スペース、荷役業務、品だし業務等を効率化。

年月日表示



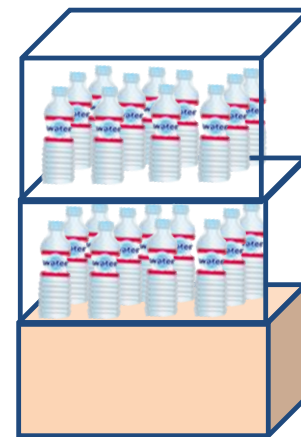
年月表示



日付管理・検品等
作業省力化

保管スペースの
極小化

ピッキング省力化



品出し・期限確認業務
効率化



運搬・積載効率向上

<参考> 賞味期限の年月表示化の期待効果 ②

賞味期限の日付逆転により商品の転送ができなかった在庫が、転送可能となることで食品廃棄を削減。

年月日表示

賞味期限
2019.10.03

A拠点 (在庫過剰)

未出荷
廃棄！

B拠点 (在庫不足)

追加
生産

欠品

賞味期限
2019.10.04

日付逆転のため転送不可

年月表示

賞味期限
2019.09

A拠点 (在庫過剰)

B拠点 (在庫不足)

賞味期限
2019.09

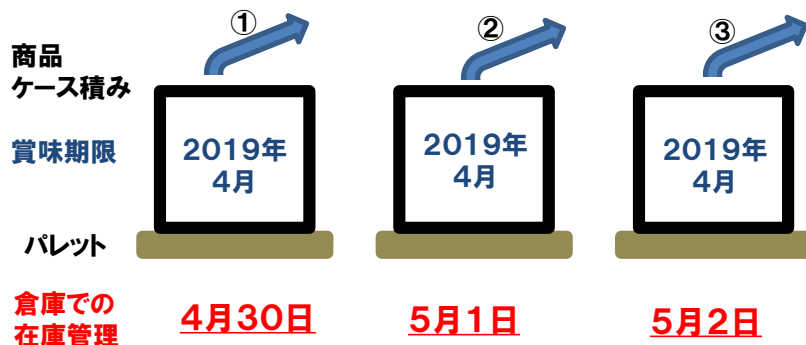
同一期限のため転送可能

<参考> 賞味期限の年月表示化の留意事項

- ✓ 年月表示化の倉庫内で発現する効果として、倉庫内保管スペース効率の向上、フォークリフト導線短縮、倉庫内ロケーション変更作業の極小化などがあるが、商品の賞味期限表示を年月表示としても、倉庫内の在庫管理が日付管理のままでは、業務効率化の効果が発揮できない。
- ✓ このため、商品のリニューアルなどのシステム変更のタイミングに合わせて、倉庫内の在庫管理も日付管理から年月管理へ変更する必要があるが、このことへの投資判断が課題となっている。
- ✓ また、在庫管理を年月管理にすることで、商品回収が必要な事案が発生した場合に支障がでるのではないかと懸念があるが、パレット毎にバーコード情報（製造日、製造時間、製造工場など）を添付するとともに目視でも商品の選別を可能とするため、アルファベット等の暗号を付記することで、パレット単位で製造日等の確認を可能としている事業者もある。

賞味期限年月表示であるが倉庫内日別管理

日付順に整列・出荷



賞味期限年月表示かつ倉庫内月別管理

日付別の整列・出荷不要



○ 日まとめ表示

- ✓ 年月表示化に伴い、「日」が切り捨てられることにより賞味期間が最大1ヶ月短縮されるため、賞味期限の延長や、納品期限緩和の働きかけが取組の拡大に向けて重要となるが、その実現に時間を要することもある。
- ✓ このため、賞味期限の短縮期間を抑えつつ、年月表示と類似の効果を得ることが可能な「日まとめ表示」を選択することも一案となる。

【年月表示の課題】

- 「日」の切り捨てにより賞味期間が最大1ヶ月短縮



- ✓ 賞味期限の延長
- ✓ 小売業界への納品期限緩和の働きかけ

- ✓ （年月日表示のまま）異なる製造日の商品について、表示する賞味期限を統一することにより、類似の効果を得ることも可能。
⇒「日まとめ表示」

（賞味期間180日間の製品を10日単位で日まとめ）

製造日	計算上の賞味期限	表示する賞味期限
1月11日	7月10日	7月10日
1月20日	7月19日	
1月21日	7月20日	7月20日
1月31日	7月30日	
2月1日	7月31日	7月31日
2月10日	8月9日	

（賞味期間180日間の製品を15日単位で日まとめ）

製造日	計算上の賞味期限	表示する賞味期限
1月16日	7月15日	7月15日
1月31日	7月30日	
2月1日	7月31日	7月31日
2月15日	8月14日	

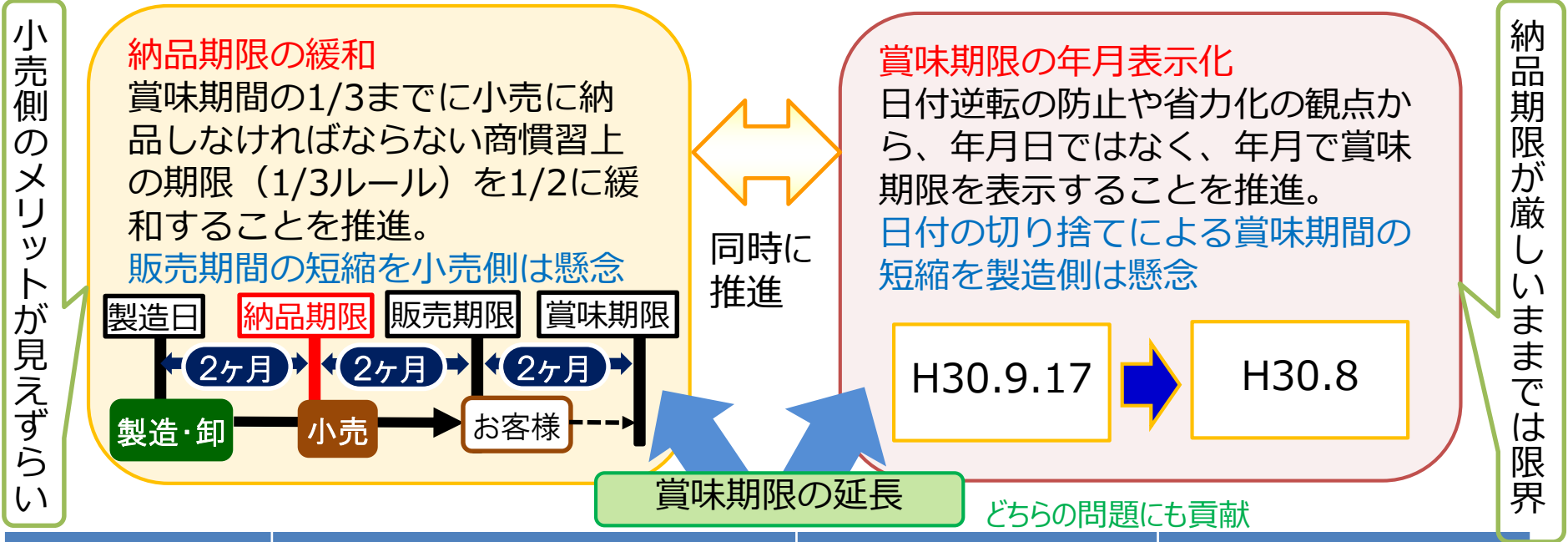
- ✓ 平成28年度に農林水産省が全国の主要小売企業（ドラッグストア含む）と実施した意見交換において、一部に慎重な立場を取る企業はあるものの、多数の企業から、年月表示化を進めて欲しいとの意見。

【主な意見】

- 賞味期限の延長・年月表示化を是非お願いしたい。特に年月日表示は消費者の鮮度志向を助長している。
- 店舗管理がしやすくなるので、年月表示化は進めてほしい。
- 年月表示化を進めてもらえると毎週チェックしていたものを月に一度になるので管理が楽になる。
- 日表示の2～3日の違いに神経質にならずに済むので、オペレーション上の無駄がなくなる。
- 棚替えや陳列には手間が掛かり、当社では朝6:00～9:00までの間の陳列専門のパートを雇っているが、人材確保が難しく、高齢者の割合が高くなっており、負担軽減にもつながる。
- 購入日と同月の賞味期限のものが陳列されていると、消費者からクレームがくるおそれがあり、前月末に撤去する予定。

○商慣習の見直しについて

- ✓ 過剰在庫や返品等、製造業・卸売業・小売業に跨がる課題についてはフードチェーン全体で解決する必要。農林水産省は、平成24年度に「食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム」を設置し、その取組を支援。常温流通の加工食品については、「納品期限の緩和」「賞味期限の年月表示化」「賞味期限の延長」を三位一体で推進。
- ✓ 納品期限については、清涼飲料と賞味期間180日以上菓子について、大手の総合スーパー、コンビニエンスストアを中心に見直しが進んでいるが、今後は、取り組む企業や品目の拡大が必要。



	食品製造業	食品卸売業	食品小売業
納品期限緩和	○ (無駄な製造や在庫数量の減少)	-	× (販売期間の短縮)
賞味期限の年月表示化	△ ((+) 在庫管理の効率化) ((-) 賞味期間が最大 1ヶ月短縮)	○ (在庫管理の効率化)	○ (品出し業務等の効率化)